

アレックス・ボーディンに関する UCI の声明文

国際自転車競技連合（UCI）は、フランス人選手アレックス・ボーディンに対し、トラマドールの副作用を考慮し、選手の安全と健康を守ることを目的とした UCI メディカル規則に定められた競技中のトラマドール使用禁止違反による制裁を科したと発表した。

5 月 24 日、2023 年ジロ・デ・イタリア第 17 ステージで同選手から提供された乾燥血液サンプルの分析により、トラマドールとその 2 つの主要代謝物が検出された。

UCI メディカル・ルールに従い、徹底的な検証を行った結果、同選手は 2023 年ジロ・デ・イタリアの出場資格を失う。この決定は、今後 10 日以内にスポーツ仲裁裁判所（CAS）に提訴することができる。

2023 年ジロ・デ・イタリア期間中、トラマドールプログラムの一環として合計 64 の乾燥血液サンプルが採取された。

競技会におけるトラマドール使用禁止違反は、UCI メディカル・ルールにおける犯罪である。アンチ・ドーピング規則違反には該当しない。今回の違反は初犯であるため、アレックス・ボーディンは不適格とはされず、競技に参加することができる。

UCI はこの件に関してこれ以上コメントしない。

トラマドールの禁止について

2019 年 3 月 1 日以降、UCI はこの物質の副作用に鑑み、選手の健康と安全を守るため、すべての種目とカテゴリーにおいて競技におけるトラマドールの使用を禁止している。この物質は、2024 年 1 月 1 日から世界アンチ・ドーピング機構（WADA）でも禁止される。

検体は国際検査機関（ITA）によって、DBS（Dried Blood Spots）参照法を用いて採取される。スイスの DBS システムズ社が開発したサンプリングキットを使用し、ライダーの指先から少量の血液を採取する侵襲の少ない検査である。

サンプルの分析は、ジュネーブ大学の臨床薬理学・毒性学研究室で独自に行われ、トラマドールとその 2 つの主要代謝物の有無と量をピアレビュー方式で判定する。その結果は、ローザンヌ大学のアンチ・ドーピング科学研究・専門家センター（REDs）に提出され、最終的な独立審査が行われる。

結果は最終的に UCI メディカル・ディレクターに提出され、同ディレクターが UCI メディカル規則に従って結果管理を行う。

トラマドールの禁止に関する規則は、こちらで参照できる。